

東京医療学院大学 卒業生アンケート 2025

1. 調査概要

本学での教育が卒業後の仕事に役に立っているのか状況を把握し、今後の教育に反映していくことを目的に本学の卒業生に対して、(1)基本情報、(2)満足度調査、(3)到達度/自己研鑽、(4)大学活動の役立ち、(5)大学への希望などに関して、2025年9月に調査を行った。

2. 基本属性

回答者の性別は、女性が54.3%、男性が42.9%であり、女性が男性を上回った。なお、性別無回答が2.9%であった。

学科・専攻別では、理学療法学専攻が57.1%と最も多かった。

3. 大学満足度に関する結果

大学満足度に関して、「カリキュラムの充実」については、「満足」または「概ね満足」と回答した者が全体の約7割を占め、概ね良好な評価が得られた。一方で、「やや不満」と回答した者も一定数存在しており、改善の余地が示唆された。

「就職活動支援の充実」については、「満足」「概ね満足」とする回答が多く、本学の就職支援体制は卒業生から一定の評価を得ていることが明らかとなった。

4. 現在の仕事への役立ちに関して

在学中に修得した知識・技術については、「役に立っている」または「概ね役に立っている」と回答した者がほぼ全員を占め、卒業後の実務において高く評価されていることが示された。

また、臨床実習等についても同様に高い評価が得られ、実践的教育の有用性が示唆された。さらに、ディプロマ・ポリシー（DP）に関連する各項目についても、多くの卒業生が「仕事に役立っている」と回答しており、本学の教育目標が卒業後の実務能力と一定程度結びついていることが示された。

5. 卒業後の現在の状況

現在の仕事の満足度については、「満足」または「概ね満足」と回答した者が約86%を占め、卒業生の多くが現職に対して肯定的に評価していることが明らかとなった。一方で、「やや不満」と回答した者も一定数存在していた。

研究活動への取り組みについては、「取り組んでいる」と回答した者は少数にとどまり、卒業後に研究活動へ継続的に関与する卒業生は限られている実態が示された。

6. 大学生活において役立った経験

大学生活で役立ったと感じた要素としては、「同級生との交流」が最も多く挙げられ、次いで「講義内容」「教員との交流」が続いた。この結果から、人的環境および教育的関わりが卒業後にも肯定的に評価されていることがうかがえる。

また、「実習での実践能力」を挙げた回答も一定数認められ、実習教育の重要性が改めて示された。

7. 本大学への要望

本学への要望としては、「卒業後教育プログラムを希望する」と回答した者が約半数に近く、卒業後も継続的な学習機会を求めるニーズが一定程度存在していることが明らかとなった。一方で、「希望しない」とする回答も同程度認められ、卒業生のニーズには多様性があることが示された。

「卒業生の交流会」については、希望する者は3割未満にとどまり、交流支援の在り方については工夫が必要であると考えられた。

8. 大学満足度・仕事への役立ちと現状との関連

相関分析の結果、大学満足度のうち「就職活動支援の充実」は、現在の仕事の満足度と有意な正の関連を示した。また、「臨床実習等の役立ち」や一部の仕事への役立ち項目とも関連が認められ、在学中の支援や実践的学習が卒業後の職業満足度に影響している可能性が示唆された。

一方で、離職希望や研究活動への取り組みとの関連は限定的であった。傾向として、施設の充実を高く評価した卒業生は研究希望が高く、離職の希望のある卒業生は、経済的支援の満足度が低く、修得した知識・技術の役立ちが低い傾向を示していた。

9. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連

DP1：人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

DP2：人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

DP3：多様な社会を理解し、保健医療福祉活動に貢献することができる。

DP4：地域の保健医療福祉の現状を知り、課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

DP5：専門職として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

DP6：専門職として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

相関分析の結果、大学満足度のうち「就職活動支援の充実」は、DP1～DP5と有意な正の相関を示し、DP6についても有意傾向が認められた。このことから、就職活動に対する支援の充実度は、卒業後における仕事への役立ちやディプロマ・ポリシーの達成感と幅広く関連していることが示された。一方、「経済的支援の充実」はDP2とのみ有意な関連を示し、「施設設備の充実」はいずれのDPとも有意な関連を示さなかった。

仕事への役立ちに関する項目では、「臨床実習等」および「社会的スキル」が複数の DP と有意な正の相関を示した。特に「社会的スキル」は DP1～DP5 と中～強い相関を示しており、卒業後の実務において人的・対人関係能力がディプロマ・ポリシーの達成と密接に関連していることが示唆された。「修得した知識・技術」は一部の DP とのみ有意傾向が認められた。

現在の仕事の満足度は DP2 と有意な正の相関を示したが、研究活動、将来展望、自己投資、離職希望と DP との間には明確な関連は認められなかった。

以上

東京医療学院大学 学生生活支援課